

募集代理店



東京スター銀行

引受保険会社



アクサ生命保険株式会社

スターアキュムレーター

StarAccumulator

積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(基本保険金額型)付変額個人年金保険(米ドル建)

2010年度(平成22年度)

特別勘定の現況

(アクサ・アロケーションファンド20/50/80)

[2010年度\(平成22年度\)決算のお知らせ](#)

投資対象となる投資信託

アクサ・アロケーションファンド20/50/80

運用会社 AXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニー



運用会社のAXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーは、1859年にニューヨーク州で設立された米国大手の一つに数えられる生命保険会社で、米国におけるAXAグループのメンバーカンパニーであるAXAフィナンシャルの完全子会社です。AXAフィナンシャルとは、財務アドバイザー、保険、投資管理の様々な商品・サービスを販売、提供する多角的な金融サービス企業で、フランスの持株会社AXAの子会社にあたります。AXAとは、保険会社、関連金融サービス企業から成る国際企業集団の持株会社です。AXAでは、事業セグメントを生命・積立保険、損害保険、国際保険(再保険を含む)、資産運用、その他の金融サービスの5つに分けています。運用会社は、ファンド運用専門部門であるAXAファンド・マネジメント・グループを通じて、投資顧問業務を行います。運用会社は、資産クラスごとの基本投資配分比率を決定するとともに、資産クラスごとの副運用会社を選定・モニタリングしています。

- ・アクサ生命保険株式会社の「スターアキュムレーター(StarAccumulator)積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(基本保険金額型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行なう商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用で設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「商品のご案内/ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」を必ずお読みください。

2011年8月作成

Star Accumulator スターアキュムレーター

特別勘定の現況(2011年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「スターアキュムレーター(StarAccumulator)」積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(基本保険金額型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行う商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用として設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「商品のご案内/ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」を必ずお読みください。

特別勘定(アクサ・アロケーションファンド20)の運用方針

特別勘定名	アクサ・アロケーションファンド20
投資対象となる投資信託	アクサ・アロケーションファンド20
投資信託の運用会社	AXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニー
投資信託の運用方針	当ファンドは、マザーファンドである「アクサ・オフショア・コンサバティブ・マルチマネージャー・ファンド」(以下「アクサ・コンサバティブ・ファンド」と言います)に100%投資することにより、信託財産の安定的な成長を目指して運用を行います。マザーファンドの基本投資配分比率は、米国株式20%、米国債券80%とします。主なリスクとして、株式の価格変動リスク、金利変動リスク、信用リスク等があります。
ベンチマーク*	株式部分(割合20%) : S&P500 インデックス 債券部分(割合80%) : パークレイズ・キャピタル米国総合インデックス

*当ファンドが100%投資するマザーファンドである「アクサ・コンサバティブ・ファンド」のベンチマークです。

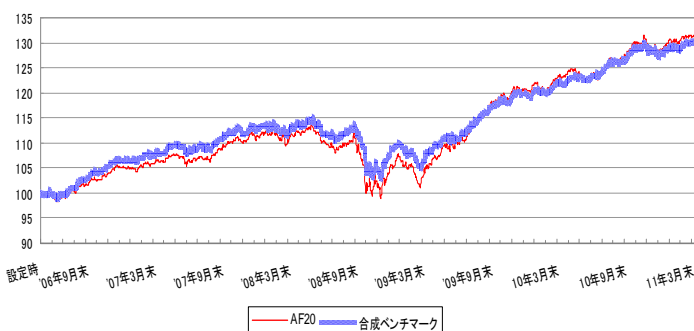
特別勘定(アクサ・アロケーションファンド20)の投資状況 [2011年3月31日現在]

投資状況		運用資産			
	時価合計(米ドル)	銘柄	ユニット口数	時価合計(米ドル)	投資比率(%)
投資信託受益証券	84,939,307.38	アクサ・オフショア・コンサバティブ・マルチマネージャー・ファンド	6,451,167.296	84,939,307.38	100.00
合計(純資産総額)	84,939,307.38				

純資産総額計算書	
I. 資産総額(米ドル)	84,939,307.38
II. 負債総額(米ドル)	0.00
III. 純資産総額(I - II)(米ドル)	84,939,307.38
IV. 発行済口数(ユニット口数)	6,451,167.296
V. 1口当たり純資産額(III/IV)(米ドル)	13.16650

ユニットプライスの推移

※グラフは投資信託の運用開始時(2006.5.12)を100として指数化しております。



ユニットプライス(1口当たり)	
小数点以下第5位四捨五入	
今月末	前月末
13.1725 米ドル	13.1251 米ドル

※上記ユニットプライスは、米国2007年3月30日のプライスです。

ユニットプライス騰落率(%)		
小数点以下第3位四捨五入		
直近1ヶ月	直近1年	運用開始来
0.36%	6.93%	31.73%

*ユニットプライスとは、特別勘定資産のユニット口数「1口」あたりの価格のことをいい、単位は「米ドル」です。投資信託の運用開始時を基準(10.0000)とし、以後、投資信託の運用実績を反映して日々変動します。

*ユニットプライスは、運用関係費控除後のプライスです。なお、保険契約の積立金額から、別途、保険契約管理費を控除(ユニット口数に反映)しておりますので、ユニットプライスの推移と保険契約の積立金額の推移は異なります。

*ユニットプライス騰落率は、それぞれの期間をさかのぼった該当月の月末のユニットプライスに対して、今月末のユニットプライスがどれくらい変動したかを計算したものです。

*合成ベンチマークとは、「アクサ・アロケーションファンド20(ベビーファンド)」が100%投資する「アクサ・オフショア・コンサバティブ・マルチマネージャー・ファンド(マザーファンド)」のベンチマークであるS&P500インデックスへ20%とパークレイズ・キャピタル米国総合インデックスへ80%投資したと仮定して計算しています。

Star Accumulator スターアキュムレーター

特別勘定の現況(2011年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「スターアキュムレーター(StarAccumulator)」積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(基本保険金額型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行う商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用として設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「商品のご案内/ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」を必ずお読みください。

特別勘定(アクサ・アロケーションファンド50)の運用方針

特別勘定名	アクサ・アロケーションファンド50
投資対象となる投資信託	アクサ・アロケーションファンド50
投資信託の運用会社	AXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニー
投資信託の運用方針	当ファンドは、マザーファンドである「アクサ・オフショア・モデレート・マルチマネージャー・ファンド」(以下「アクサ・モデレート・ファンド」と言います)に100%投資することにより、信託財産の安定的な成長を目指して運用を行います。マザーファンドの基本投資配分比率は、米国株式50%、米国債券50%とします。主なリスクとして、株式の価格変動リスク、金利変動リスク、信用リスク等があります。
ベンチマーク*	株式部分(割合50%) : S&P500 インデックス 債券部分(割合50%) : バークレイズ・キャピタル米国総合インデックス

*当ファンドが100%投資するマザーファンドである「アクサ・モデレート・ファンド」のベンチマークです。

特別勘定(アクサ・アロケーションファンド50)の投資状況 [2011年3月31日現在]

投資状況		運用資産			
	時価合計(米ドル)	銘柄	ユニット口数	時価合計(米ドル)	投資比率(%)
投資信託受益証券	500,163,644.15	アクサ・オフショア・モデレート・マルチマネージャー・ファンド	39,910,920.620	500,163,644.15	100.00
合計(純資産総額)	500,163,644.15				

純資産総額計算書

I. 資産総額(米ドル)	500,163,644.15
II. 負債総額(米ドル)	0.00
III. 純資産総額(I-II)(米ドル)	500,163,644.15
IV. 発行済口数(ユニット口数)	39,910,920.620
V. 1口当たり純資産額(III/IV)(米ドル)	12.53200

ユニットプライス(1口当たり)

小数点以下第5位四捨五入

今月末	前月末
12.5402 米ドル	12.4482 米ドル

※上記ユニットプライスは、米国2007年3月30日のプライスです。

ユニットプライス騰落率(%)

小数点以下第3位四捨五入

直近1ヶ月	直近1年	運用開始来
0.74%	10.67%	25.40%

*ユニットプライスとは、特別勘定資産のユニット口数「1口」あたりの価格のことをいい、単位は「米ドル」です。投資信託の運用開始時を基準(10.0000)とし、以後、投資信託の運用実績を反映して日々変動します。

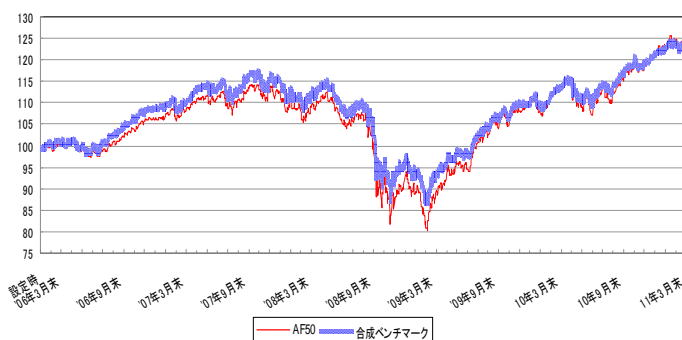
*ユニットプライスは、運用関係費控除後のプライスです。なお、保険契約の積立金額から、別途、保険契約管理費を控除(ユニット口数に反映)しておりますので、ユニットプライスの推移と保険契約の積立金額の推移は異なります。

*ユニットプライス騰落率は、それぞれの期間をさかのぼった該当月の月末のユニットプライスに対して、今月末のユニットプライスがどれくらい変動したかを計算したものです。

*合成ベンチマークとは、「アクサ・アロケーションファンド50(ベビーファンド)」が100%投資する「アクサ・オフショア・モデレート・マルチマネージャー・ファンド(マザーファンド)」のベンチマークであるS&P500インデックスとバークレイズ・キャピタル米国総合インデックスへ50%ずつ投資したと仮定して計算しています。

ユニットプライスの推移

※グラフは投資信託の運用開始時(2006.2.1)を100として指数化しております。



Star Accumulator スターアキュムレーター

特別勘定の現況(2011年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「スターアキュムレーター(StarAccumulator)」積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(基本保険金額型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行う商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用で設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「商品のご案内/ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」を必ずお読みください。

特別勘定(アクサ・アロケーションファンド80)の運用方針

特別勘定名	アクサ・アロケーションファンド80
投資対象となる投資信託	アクサ・アロケーションファンド80
投資信託の運用会社	AXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニー
投資信託の運用方針	当ファンドは、マザーファンドであるアクサ・オフショア・モデルート・マルチマネージャー・ファンド(以下「アクサ・モデルート・ファンド」と言います)に25%、アクサ・オフショア・アグレッシブ・マルチマネージャー・ファンド(以下「アクサ・アグレッシブ・ファンド」)に75%投資することにより、信託財産の安定的な成長を目指して運用を行ないます。投資対象となる投資信託は、主に米国株式68.75%、国際株式11.25%、米国債券20%に投資します。 主なりリスクとして、株式の価格変動リスク、為替リスク、金利変動リスク、信用リスク等があります。
ベンチマーク*	「アクサ・モデルート・ファンド」 株式部分(割合50%)：S&P500 インデックス 債券部分(割合50%)：パークレイズ・キャピタル米国総合インデックス 「アクサ・アグレッシブ・ファンド」 株式部分(割合90%)：S&P500 インデックス、MSCI EAFE インデックス 債券部分(割合10%)：パークレイズ・キャピタル米国総合インデックス

*当ファンドが25%投資するマザーファンドである「アクサ・モデルート・ファンド」と75%投資するマザーファンドである「アクサ・アグレッシブ・ファンド」のベンチマークです。

特別勘定(アクサ・アロケーションファンド80)の投資状況 [2011年3月31日現在]

投資状況	
	時価合計(米ドル)
投資信託受益証券	66,280,308.80
合計(純資産総額)	66,280,308.80

運用資産			
銘柄	ユニット口数	時価合計(米ドル)	投資比率(%)
アクサ・オフショア・モデルート・マルチマネージャー・ファンド	1,398,509.362	17,526,119.32	26.44
アクサ・オフショア・アグレッシブ・マルチマネージャー・ファンド	4,362,322.568	48,754,189.48	73.56

純資産総額計算書	
I. 資産総額(米ドル)	66,280,308.80
II. 負債総額(米ドル)	0.00
III. 純資産総額(I-II)(米ドル)	66,280,308.80
IV. 発行済口数(ユニット口数)	5,760,831.930
V. 1口当たり純資産額(III/IV)(米ドル)	11.50534

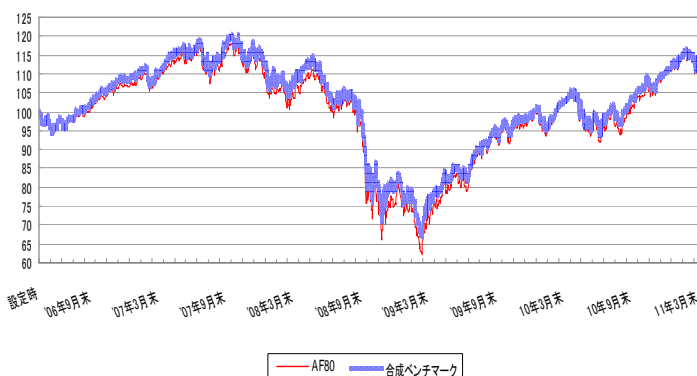
ユニットプライス(1口当たり)	
小数点以下第5位四捨五入	
今月末	前月末
11.5385 米ドル	11.4696 米ドル

※上記ユニットプライスは、米国2007年3月30日のプライスです。

ユニットプライス騰落率(%)		
小数点以下第3位四捨五入		
直近1ヶ月	直近1年	運用開始来
0.60%	12.56%	15.39%

ユニットプライスの推移

※グラフは投資信託の運用開始時(2006.5.12)を100として指数化しております。



*ユニットプライスとは、特別勘定資産のユニット口数「1口」あたりの価格のことをいい、単位は「米ドル」です。投資信託の運用開始時を基準(10,000)とし、以後、投資信託の運用実績を反映して日々変動します。

*ユニットプライスは、運用関係費控除後のプライスです。なお、保険契約の積立金額から、別途、保険契約管理費を控除(ユニット口数に反映)しておりますので、ユニットプライスの推移と保険契約の積立金額の推移は異なります。

*ユニットプライス騰落率は、それぞれの期間をさかのぼった該当月の月末のユニットプライスに対して、今月末のユニットプライスがどれくらい変動したかを計算したものです。

*合成ベンチマークとは、「アクサ・アロケーションファンド80(ベビーファンド)」が25%投資する「アクサ・オフショア・モデルート・マルチマネージャー・ファンド(マザーファンド)」75%投資する「アクサ・オフショア・アグレッシブ・マルチマネージャー・ファンド(マザーファンド)」のベンチマークであるS&P500インデックスへ68.75%、MSCI EAFEへ11.25%、およびパークレイズ・キャピタル米国総合インデックスへ20%投資したと仮定して計算しています。

Star Accumulator スター・アキュムレーター 特別勘定の現況(2011年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「スター・アキュムレーター(Star Accumulator)積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(基本保険金額型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行う商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用で設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「商品のご案内/契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」を必ずお読みください。

市場コメント

<マーケット概況>

2010年度は、これまでの市場における通念が数回にわたって覆されました。まず、安定的で緩やかな景気回復というシナリオは、欧州を中心とした金融危機へと変わり、その後しばらく金融危機懸念がくすぶり続けた後、年度末には、慎重なスタンスながらも懸念は緩和されました。発展途上市場が経済成長を牽引しましたが、4月にはギリシャ国債の格下げがユーロ圏各国に飛び火し始め、5月には米国株式市場でのフラッシュクラッシュ(急激な株価下落)がデフレと二重底不況について懸念を増大させる結果となりました。また、元本保全の動きにより買への逃避が加速し、米国国債が買われました。2011年3月には、地震と津波が大きな被害をもたらした東日本大震災が起りましたが、日本の再建が世界経済にプラスになる可能性があるとの見方を投資家が示したことにより、市場は速やかに回復しました。また中東では情勢不安が続き、国連安全保障理事会がリビア軍への軍事攻撃を容認したこと、サウジアラビアによるバーレーンへの治安部隊派遣が、それに拍車をかけました。

S&P500インデックスは2011年1月～3月期には+5.92%、通期では+15.65%上昇しました。2010年度のS&P500インデックスは全セクターで上昇しましたが、とりわけエネルギー・セクター(+39.82%)は、中東から北アフリカにかけての政治的混乱による原油供給不安定化のリスクが高まり原油価格が高騰したため、インデックスの平均を大幅に上回る上昇となりました。電気通信サービスセクター及び資本財・サービスセクターのパフォーマンスも良好でしたが、金融セクターの伸びはプラスながらも+3.95%と遅れました。

米国株式市場では、引き続き小型株と中型株が大型株をアウトパフォームしました。S&P400インデックスは2011年1月～3月期に+9.36%、通期では+26.95%上昇しました。小型株の回復が若干遅れましたが、小型株のインデックスのラッセル2000インデックスは2011年1月～3月期に+7.94%、通期で+25.79%と大きく伸びました。小型・中型株セクターでは、成長株のパフォーマンスが割安株を上回りました(大型株では逆の展開となりました)。

米国では堅調な回復が続きましたが、その他の市場の状況は様々で、2011年2月・3月の危機がグローバルな成長の逆風となりました。多くの石油輸出国での混乱と核エネルギーの将来に関する懸念がエネルギー価格の上昇圧力となっています。また欧州周辺国における公的債務問題が不透明感を強めました。MSCI EAFEインデックスが示すように、国際株式と先進国市場は2011年1月～3月期に+3.36%、通期で+10.42%の伸びとなりました。

好調な株式市場とは対照的に、投資適格債券市場は2010年後半に調整局面に入りました。2011年1月～3月に米国国債の利回りは米国経済に回復の兆しが見られたこと、商品相場の上昇、並びに連邦準備銀行による追加的量的緩和と政策(QE2)がインフレを誘発する可能性があるとの懸念により全般的に上昇しました。期末近くになると世界での様々な事象により米国国債が安全資産として買われました。パークレイズ・キャピタル米国総合インデックスは2011年1月～3月期に+0.42%、通期では+5.12%となりました。

マザーファンド(アクサ・コンサバティブ・ファンド*)運用コメント

*アクサ・コンサバティブ・ファンドは、特別勘定が投資対象とする「アクサ・アロケーションファンド20」が100%投資しているマザーファンドです。

マザーファンド(アクサ・コンサバティブ・ファンド)運用コメント

<ポートフォリオハイライト>

2010年4月1日～2011年3月末日について

2010年度期末時点で、当ファンド資産の約78.56%は米国債券[運用会社はパシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー]、残る21.44%は米国株式を組み入れました。株式投資対象として、大型成長株式[運用会社はモンターグ・アンド・コールドウェル・インク、マーシコ・キャピタル・マネジメント・エルエルシー]、大型割安株式[運用会社はパロー、ハンリー、ミューヒニー・アンド・ストラウス・インク、ブラックロック・インベストメント・マネジメント・エルエルシー]、小型成長株式[運用会社はイーグル・アセット・マネジメント・インク]がありました。

当年度のファンド年間のリターンは+6.83%、ベンチマークのリターンは+7.45%でした。ベンチマークはS&P500インデックスに20%、パークレイズ・キャピタル米国総合インデックスに80%それぞれ投資したと仮定して計算した合成指数です。

<株式投資ハイライト>

当年度パフォーマンスのプラス材料

- ・ 情報技術セクターを若干少なめに保有したことがパフォーマンスのプラス材料となりました。
- ・ 一般消費財・サービスセクター及び生活必需品セクターの銘柄選択がパフォーマンスのプラス材料となりました。
- ・ 個別株式銘柄では、電気通信サービスセクターのQwest Communications International Inc.(クwest・コミュニケーションズ・インターナショナル)、資本財・サービスセクターのFluor Corporation(フルア)がパフォーマンスに主に貢献し、またHalliburton Company(ハリバートン)、Marathon Oil Corporation(マラソン・オイル)、Peabody Energy Corporation(ピーボディ・エナジー)等のエネルギーセクターの銘柄選択もプラス材料となりました。
- ・ 情報技術セクターのCisco Systems, Inc.(シスコ・システムズ)、生活必需品セクターのThe Procter & Gamble Company(プロクター・アンド・ギャンブル)を少なめに保有したこともプラス材料となりました。

当年度パフォーマンスのマイナス材料

- ・ エネルギーセクターの銘柄選択がパフォーマンスのマイナス材料となりました。
- ・ 個別株式銘柄では、エネルギーセクターのAnadarko Petroleum Corporation(アナダルコ・ペトロリアム)、資本財・サービスセクターのRaytheon Company(レイセオン)及び情報技術セクターのHewlett-Packard Company(ヒューレット・パッカード)がパフォーマンスのマイナス材料となりました。
- ・ 情報技術セクターのApple, Inc.(アップル)及びエネルギーセクターのChevronTexaco Corporation(シェブロン)、Schlumberger Limited(シュルンベルジェ)を少なめに保有したこともパフォーマンスのマイナス材料となりました。
- ・ 資本財・サービスセクターのCaterpillar Inc.(キャタピラー)を保有しなかったこともマイナス材料となりました。

<債券投資ハイライト>

当年度パフォーマンスのプラス材料

- ・ 金利低下に伴い戦術的なデュレーションのポジションを取ったことがプラスに寄与しました。
- ・ 社債セクターを全般的に上回った金融セクターを多めに保有したことが、パフォーマンスにプラスに寄与しました。
- ・ 投資家のリスク資産選好が高まる中、パフォーマンスが同デュレーションの米国国債を上回ったハイ・イールド債を適度に保有したことがプラスに寄与しました。
- ・ 米国国債よりパフォーマンスが好調であった新興市場債券を2010年中盤に適度に保有したことがプラスに寄与しました。

当年度パフォーマンスのマイナス材料

- ・ 重点的に投資したシニア・高格付けCMBS債の利回りは享受できましたが、反発をみせた商業不動産担保証券(CMBS)を全体的に少なめに保有したことがマイナス材料となりました。
- ・ 地方債市場は2011年1月～3月に若干の回復を見せましたが、パフォーマンスが不安定であったビルド・アメリカ債を保有していたことがマイナス材料となりました。

Star Accumulator スターアキュムレーター

特別勘定の現況(2011年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「スターアキュムレーター(Star Accumulator)」積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(基本保険金額型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行う商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用で設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「商品のご案内/ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」を必ずお読みください。

マザーファンド(アクサ・モデレート・ファンド*)運用コメント

*アクサ・モデレート・ファンドは、特別勘定が投資対象とする「アクサ・アロケーションファンド50」が100%、「アクサ・アロケーションファンド80」が25%投資しているマザーファンドです。

マザーファンド(アクサ・モデレート・ファンド)運用コメント

<ポートフォリオハイライト>

2010年4月1日~2011年3月末日について

2010年度期末時点で、当ファンド資産の約48.33%は米国債券[運用会社はパシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー]、残る51.67%は米国株式を組み入れました。株式投資対象として、大型成長株式[運用会社はモンターグ・アンド・コールドウェル・インク、マーシコ・キャピタル・マネジメント・エルエルシー]、大型割安株式[運用会社はパロー、ハンリー、ミューヒニー・アンド・ストラウス・インク、ブラックロック・インベストメント・マネジメント・エルエルシー]、小型成長株式[運用会社はイーグル・アセット・マネジメント・インク]、小型割安株[運用会社はガムコ・アセット・マネジメント・インク]がありました。当年度のファンド年間のリターンは+10.72%、ベンチマークのリターンは+10.75%でした。ベンチマークはS&P500インデックスに50%、パークレイズ・キャピタル米国総合インデックスに50%それぞれ投資したと仮定して計算した合成指数です。

<株式投資ハイライト>

当年度パフォーマンスのプラス材料

- ・ 資本財・サービスセクターをベンチマークに比べて若干多めに保有したことが銘柄選択効果とともにパフォーマンスのプラス材料となりました。
- ・ 資本財・サービスセクター及び一般消費財・サービスセクターの銘柄選択がパフォーマンスのプラス材料となりました。
- ・ 個別株式銘柄では、エネルギーセクターのLufkin Industries, Inc. (ラフキン・インダストリーズ)、資本財・サービスセクターのFluor Corporation (フルアー)及び情報技術セクターのBaidu Inc. (百度[バイデュー])がパフォーマンスにプラスに貢献しました。
- ・ 情報技術セクターのCisco Systems, Inc. (シスコ・システムズ)、Microsoft Corporation (マイクロソフト)と生活必需品セクターのJohnson & Johnson (ジョンソン・エンド・ジョンソン)を少なめに保有したこともプラス材料となりました。

当年度パフォーマンスのマイナス材料

- ・ エネルギーセクターを若干少なめに保有したことが銘柄選択がパフォーマンスのマイナス材料となりました。
- ・ 個別株式銘柄では、エネルギーセクターのAnadarko Petroleum Corporation (アナダルコ・ペトロリアム)、資本財・サービスセクターのRaytheon Company (レイセオン)及び情報技術セクターのResearch in Motion Limited (リサーチ・イン・モーション)がパフォーマンスのマイナス材料となりました。
- ・ 情報技術セクターのApple, Inc. (アップル)及びエネルギーセクターのChevronTexaco Corporation (シェブロン)、Exxon mobil Corporation (エクソンモービル)を少なめに保有したこともパフォーマンスのマイナス材料となりました。
- ・ 資本財・サービスセクターのCaterpillar Inc. (キャタピラー)を保有しなかったこともマイナス材料となりました。

<債券投資ハイライト>

当年度パフォーマンスのプラス材料

- ・ 金利低下に伴い戦術的なデュレーションのポジションを取ったことがプラスに寄与しました。
- ・ 社債セクターを全般的に上回った金融セクターを多めに保有したことが、パフォーマンスにプラスに寄与しました。
- ・ 投資家のリスク資産選好が高まる中、パフォーマンスが同デュレーションの米国国債を上回ったハイ・イールド債を適度に保有したことがプラスに寄与しました。
- ・ 米国国債よりパフォーマンスが好調であった新興市場債券を2010年中盤に適度に保有したことがプラスに寄与しました。

当年度パフォーマンスのマイナス材料

- ・ 重点的に投資したシニア・高格付けCMBS債の利回りは享受できませんでしたが、反発をみせた商業不動産担保証券(CMBS)を全体的に少なめに保有したことがマイナス材料となりました。
- ・ 地方債市場は2010年1月~3月に若干の回復を見せましたが、パフォーマンスが不安定であったビルド・アメリカ債を保有していたことがマイナス材料となりました。

Star Accumulator スターアキュムレーター

特別勘定の現況(2011年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「スターアキュムレーター(Star Accumulator)積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(基本保険金額型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行う商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用として設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエクイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「商品のご案内/契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」を必ずお読みください。

マザーファンド(アクサ・アグレッシブ・ファンド*)運用コメント

*アクサ・アグレッシブ・ファンドは、特別勘定が投資対象とする「アクサ・アロケーションファンド80」が75%投資しているマザーファンドです。

マザーファンド(アクサ・アグレッシブ・ファンド)運用コメント

<ポートフォリオハイライト>

2010年4月1日～2011年3月末日について

2010年度期末時点で、当ファンド資産の約9.53%は米国債券[運用会社はバシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー]、残る77.94%は米国株式、12.53%は国際株式を組み入れました。株式投資対象として、大型成長株式[運用会社はモンターグ・アンド・コールドウェル・インク、マーシコ・キャピタル・マネジメント・エルエルシー]、大型割安株式[運用会社はパロー、ハンリー、ミューヒニー・アンド・ストラウス・インク、ブラックロック・インベストメント・マネジメント・エルエルシー]、小型成長株式[運用会社はイーグル・アセット・マネジメント・インク]、小型割安株式[運用会社はガムコ・アセット・マネジメント・インク]、国際株式[運用会社はアライアンス・バーンスタイン・エルピー]がありました。当年度のファンド年間のリターンは+13.39%、ベンチマークのリターンは+14.00%でした。ベンチマークはS&P500インデックスに75%、MSCI EAFAINデックスに15%、パークレイズ・キャピタル米国総合インデックスに10%それぞれ投資したと仮定して計算した合成指数です。

<株式投資ハイライト>

当年度パフォーマンスのプラス材料

- ・ 資本財・サービスセクターをベンチマークに比べて若干多めに保有したことが銘柄選択効果とともにパフォーマンスのプラス材料となりました。
- ・ 一般消費財・サービスセクターとヘルスケアセクターの銘柄選択がパフォーマンスのプラス材料となりました。
- ・ 個別株式銘柄では、エネルギーセクターのLufkin Industries, Inc.(ラフキン・インダストリーズ)、資本財・サービスセクターのFluor Corporation(フルアー)及び情報技術セクターのBaidu Inc.(百度[バイデュー])がパフォーマンスに主に貢献しました。
- ・ 情報技術セクターのCisco Systems, Inc.(シスコ・システムズ)、生活必需品セクターのJohnson & Johnson(ジョンソン・エンド・ジョンソン)を少なめに保有したこともプラス材料となりました。

当年度パフォーマンスのマイナス材料

- ・ エネルギーセクターを若干少なめに保有したことが銘柄選択がパフォーマンスのマイナス材料となりました。
- ・ 個別株式銘柄では、エネルギーセクターのAnadarko Petroleum Corporation(アナダルコ・ペトロリアム)、資本財・サービスセクターのRaytheon Company(レイセオン)及び情報技術セクターのResearch in Motion Limited(リサーチ・イン・モーション)がパフォーマンスのマイナス材料となりました。
- ・ 情報技術セクターのApple, Inc.(アップル)及びエネルギーセクターのChevronTexaco Corporation(シェブロン)、Schlumberger Limited(シュルンベルジェ)を少なめに保有したこともパフォーマンスのマイナス材料となりました。
- ・ 資本財・サービスセクターのCaterpillar Inc.(キャタピラー)を保有しなかったこともマイナス材料となりました。

<債券投資ハイライト>

当年度パフォーマンスのプラス材料

- ・ 金利低下に伴い戦術的なデュレーションのポジションを取ったことがプラスに寄りました。
- ・ 金融セクターの銘柄選択がプラス材料となりました。

当年度パフォーマンスのマイナス材料

- ・ パフォーマンスが同デュレーションの米国国債を上回った政府系機関モーゲージ債をほぼ通期で少なめに保有していたことがマイナス材料となりましたが、銘柄選択効果によりマイナス影響の一部は相殺されました。

StarAccumulator スターアキュムレーター 特別勘定の現況(2011年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「スターアキュムレーター(StarAccumulator)」積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(基本保険金額型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行う商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用として設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエキタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」商品のご案内/ご契約のしおり・約款「特別勘定のしおり」を必ずお読みください。

マザーファンド(「アクサ・コンサパティブ・ファンド」*)のポートフォリオの状況 [2011年3月31日現在(米国)]

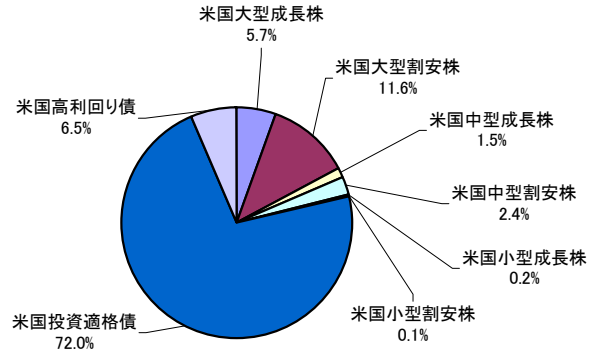
*アクサ・コンサパティブ・ファンドは、特別勘定が投資対象とする「アクサ・アロケーションファンド20」が100%投資しているマザーファンドです。

資産別の構成比率

*比率は小数点第2位四捨五入しております。純資産に基づき作成しております。

資産クラス	比率	主要投資対象	比率
米国大型成長株	5.7%	米国株式	21.4%
米国大型割安株	11.6%		
米国中型成長株	1.5%		
米国中型割安株	2.4%		
米国小型成長株	0.2%		
米国小型割安株	0.1%		
米国投資適格債	72.0%	米国債券	78.6%
米国高利回り債	6.5%		

(注)比率は種類別の時価金額(有価証券の買戻しに係る未払金控除後)の純資産総額に対する比率をいいます。



組入上位銘柄

(対純資産総額比率)

米国株式等			米国債券等		
順位	銘柄名	組入比率	順位	銘柄名	組入比率
1	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー (JPMorgan Chase & Co.)	0.6%	1	ファニーメイ (連邦住宅抵当公庫) (Federal National Mortgage Association)	10.1%
2	マイクロソフト (Microsoft Corporation)	0.5%	2	ファニーメイ (連邦住宅抵当公庫) TBA (TBA Federal National Mortgage Association)	6.9%
3	ファイザー製薬 (Pfizer Inc.)	0.5%	3	フレディマック (連邦住宅金融抵当金庫) (Federal Home Loan Mortgage Corporation)	2.5%
4	エクソンモービル (Exxon mobil Corporation)	0.4%	4	米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	1.4%
5	ゼネラル・エレクトリック (General Electric Company)	0.4%	5	ファニーメイ (連邦住宅抵当公庫) (Federal National Mortgage Association)	1.4%
6	シティグループ (Citigroup Inc.)	0.4%	6	米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	1.4%
7	ウェルズ・ファーゴ・アンド・カンパニー (Wells Fargo & Company)	0.4%	7	ファニーメイ (連邦住宅抵当公庫) (Federal National Mortgage Association)	1.3%
8	ユニリーバ (Unilever NV)	0.4%	8	パークレイズ・バンク (Barclays Bank Plc)	1.2%
9	メルク (Merck & Co. Inc.)	0.3%	9	ファニーメイ (連邦住宅抵当公庫) (Federal National Mortgage Association)	1.2%
10	インターナショナル・ビジネス・マシーンス (IBM)	0.3%	10	ブラジル銀行 (Banco do Brasil S.A.)	1.2%

組入銘柄数: 262

組入銘柄数: 156

業種別構成比

(対株式の資産時価総額比率)

順位	業種	組入比率
1	エネルギー	12.4%
2	資本財	11.8%
3	各種金融	11.1%
4	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	7.4%
5	ソフトウェア・サービス	7.1%
6	保険	6.0%
7	食品・飲料・タバコ	5.5%
8	素材	4.7%
9	ヘルスケア機器・サービス	4.6%
10	メディア	4.4%

(注)組入比率は株式の資産時価金額合計に対する業種別の資産時価金額の比率をいいます。

(注)TBA投資に伴う取引を考慮して算出しております。

TBA取引とは、モーゲージ・パススルー証券の売買の際に、発行機関、年限、クーポン、額面金額などを特定し、受渡しの対象となるプール(複数の住宅ローンをもとめたもの)は指定せずに行う先渡取引形態です。

引受保険会社: アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1 17 3

TEL: 0120 948 193

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

StarAccumulator スターアキュムレーター 特別勘定の現況 (2011年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「スターアキュムレーター(StarAccumulator)」積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(基本保険金額型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行う商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用として設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエキタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関する内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「商品のご案内/ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」を必ずお読みください。

マザーファンド(「アクサ・モデレート・ファンド」*)のポートフォリオの状況 [2011年3月31日現在(米国)]

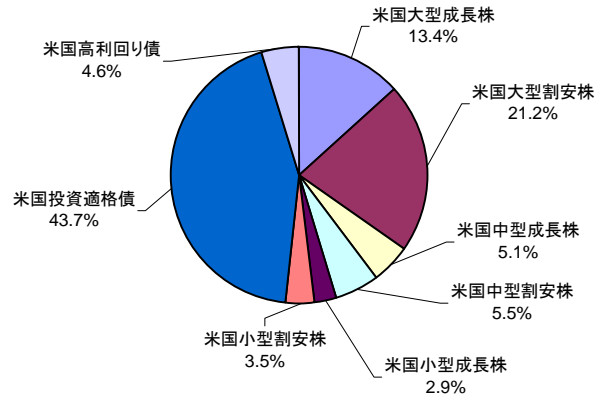
*「アクサ・モデレート・ファンド」は、特別勘定が投資対象とする「アクサ・アロケーションファンド50」が100%投資しているマザーファンドです。また、「アクサ・アロケーションファンド80」が25%投資しているマザーファンドです。

資産別の構成比率

*比率は小数点第2位四捨五入しております。純資産に基づき作成しております。

資産クラス	比率	主要投資対象	比率
米国大型成長株	13.4%	米国株式	51.7%
米国大型割安株	21.2%		
米国中型成長株	5.1%		
米国中型割安株	5.5%		
米国小型成長株	2.9%		
米国小型割安株	3.5%		
米国投資適格債	43.7%	米国債券	48.3%
米国高利回り債	4.6%		

(注)比率は種類別の時価金額(有価証券の買戻しに係る未払金控除後)の純資産総額に対する比率をいいます。



組入上位銘柄

(対純資産総額比率)

米国株式等		組入比率
1	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー (JPMorgan Chase & Co.)	1.1%
2	マイクロソフト (Microsoft Corporation)	0.8%
3	シティグループ (Citigroup Inc.)	0.8%
4	ファイザー製薬 (Pfizer Inc.)	0.7%
5	ウェルズ・ファーゴ・アンド・カンパニー (Wells Fargo & Company)	0.7%
6	アップル (Apple, Inc.)	0.7%
7	ゼネラル・エレクトリック (General Electric Company)	0.6%
8	エクソンモービル (Exxon mobil Corporation)	0.6%
9	インターナショナル・ビジネス・マシーンス (IBM)	0.6%
10	ハリバートン (Halliburton Company)	0.5%

組入銘柄数: 405

米国債券等		利率	償還日	組入比率
1	ファニーメイ(連邦住宅抵当公庫) TBA (TBA Federal National Mortgage Association)	4.000%	2041年4月25日	6.1%
2	ファニーメイ(連邦住宅抵当公庫) (Federal National Mortgage Association)	4.500%	2039年12月1日	4.7%
3	フレディマック(連邦住宅金融抵当金庫) (Federal Home Loan Mortgage Corporation)	5.000%	2017年2月16日	2.0%
4	米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	3.375%	2019年11月15日	1.8%
5	スウェッドバンク (Swedbank AB)	2.800%	2012年2月10日	1.4%
6	ファニーメイ(連邦住宅抵当公庫) (Federal National Mortgage Association)	2.375%	2015年7月28日	0.9%
7	ファニーメイ(連邦住宅抵当公庫) (Federal National Mortgage Association)	5.000%	2015年4月15日	0.8%
8	シティグループ (Citigroup Inc.)	6.500%	2013年8月19日	0.7%
9	JPモルガン・チェース・ナッソー・タイム・デポジット (JPMorgan Chase Nassau Time Deposit)	0.000%	2011年4月1日	0.7%
10	ブラジル銀行 (Banco do Brasil S.A.)	2.266%	2014年2月14日	0.7%

組入銘柄数: 191

業種別構成比

(対株式の資産時価総額比率)

米国株式		組入比率
1	資本財	13.3%
2	エネルギー	11.5%
3	各種金融	9.2%
4	ソフトウェア・サービス	7.4%
5	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	5.5%
6	ヘルスケア機器・サービス	5.5%
7	食品・飲料・タバコ	5.2%
8	素材	4.9%
9	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	4.8%
10	保険	3.9%

(注)組入比率は株式の資産時価総額合計に対する業種別の資産時価総額の比率をいいます。

(注)TBA投資に伴う取引を考慮して算出しております。

TBA取引とは、モーゲージ・パススルー証券の売買の際に、発行機関、年限、クーポン、額面金額などを特定し、受渡しの対象となるプール(複数の住宅ローンをもとめたもの)は指定せずに行う先渡取引形態です。

引受保険会社: アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1 17 3
TEL: 0120 948 193
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

StarAccumulator スターアキュムレーター 特別勘定の現況 (2011年3月末)

- ・アクサ生命保険株式会社の「スターアキュムレーター(StarAccumulator)」積立金最低保証特約・死亡給付金最低保証特約(基本保険金額型)付変額個人年金保険(米ドル建)は、特別勘定で運用を行う商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・特別勘定の運用は、運用状況によって高い収益性を期待できますが、一方で株式、その他有価証券の価格下落や金利の変動などによる投資リスクを負うことになります。また、資産運用の成果が直接死亡給付金額、払い戻し金額(解約返戻金額)および将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクが共に契約者に帰属することになります。
- ・特別勘定が用いる投資信託は、適格機関投資家専用で設定された投資信託です。このため、投資家の皆様は、当該投資信託を直接購入することはできません。
- ・投資対象となる投資信託の運用レポートは、AXAエグイタブル・ライフ・インシュアランス・カンパニーから提供されたデータをもとに、アクサ生命保険株式会社が作成しています。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・商品内容の詳細については、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」「商品のご案内/ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」を必ずお読みください。

マザーファンド(「アクサ・アグレッシブ・ファンド」*)のポートフォリオの状況 [2011年3月31日現在(米国)]

*アクサ・アグレッシブ・ファンドは、特別勘定が投資対象とする「アクサ・アロケーションファンド80」が75%投資しているマザーファンドです。

資産別の構成比率

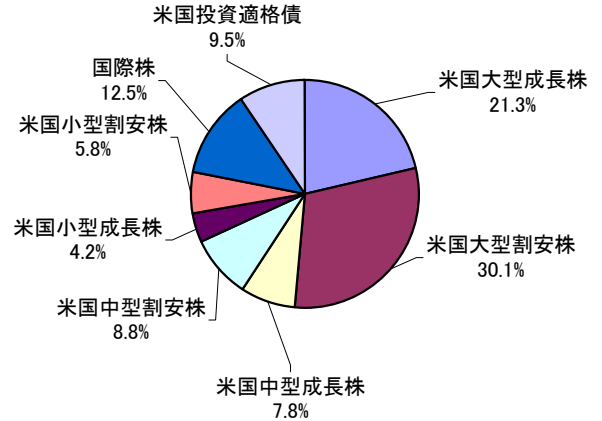
*比率は小数点第2位四捨五入しております。純資産に基づき作成しております。

資産クラス	比率	主要投資対象	比率
米国大型成長株	21.3%	米国株式	77.9%
米国大型割安株	30.1%		
米国中型成長株	7.8%		
米国中型割安株	8.8%		
米国小型成長株	4.2%		
米国小型割安株	5.8%		
国際株	12.5%	国際株式	12.5%
米国投資適格債	9.5%	米国債券	9.5%

(注)比率は種類別の時価金額(有価証券の買戻しに係る未払金控除後)の純資産総額に対する比率をいいます。

組入上位銘柄

(対純資産総額比率)



米国株式等		組入比率
1	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー (JPMorgan Chase & Co.)	1.7%
2	マイクロソフト (Microsoft Corporation)	1.2%
3	アップル (Apple, Inc.)	1.2%
4	シティグループ (Citigroup Inc.)	1.1%
5	ファイザー製薬 (Pfizer Inc.)	1.1%
6	ウェルズ・ファーゴ・アンド・カンパニー (Wells Fargo & Company)	1.0%
7	ゼネラル・エレクトリック (General Electric Company)	0.9%
8	ハリバートン (Halliburton Company)	0.9%
9	オキシデンタル・ペトロリアム・コーポレーション (Occidental Petroleum Corporation)	0.9%
10	エクソンモービル (Exxon mobil Corporation)	0.9%

組入銘柄数: 472

米国債券等		利率	償還日	組入比率
1	JPモルガン・チェース・ナッソー・タイム・デポジット (JPMorgan Chase Nassau Time Deposit)	0.000%	2011年4月1日	1.7%
2	米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	2.250%	2016年3月31日	1.2%
3	ファニーメイ (連邦住宅抵当公庫) (Federal National Mortgage Association)	4.000%	2040年11月1日	1.2%
4	米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	3.625%	2019年8月15日	0.8%
5	フレディマック (連邦住宅金融抵当公庫) (Federal Home Loan Mortgage Corporation)	4.875%	2018年6月13日	0.7%
6	米国中期国債 (U.S. Treasury Note)	1.250%	2015年10月31日	0.4%
7	ファニーメイ (連邦住宅抵当公庫) (Federal National Mortgage Association)	4.500%	2039年12月1日	0.4%
8	アメリカン・インターナショナル・グループ (American International Group)	8.625%	2068年5月22日	0.3%
9	ファニーメイ (連邦住宅抵当公庫) (Federal National Mortgage Association)	5.000%	2015年4月15日	0.3%
10	ファニーメイ (連邦住宅抵当公庫) (Federal National Mortgage Association)	2.375%	2015年7月28日	0.3%

組入銘柄数: 41

業種別構成比

(対株式の資産時価総額比率)

(注) TBA投資に伴う取引を考慮して算出しております。

TBA取引とは、モーゲージ・パススルー証券の売買の際に、発行機関、年限、クーポン、額面金額などを特定し、受渡しの対象となるプール(複数の住宅ローンをもとめたもの)は指定せずに行う先渡取引形態です。

米国株式		組入比率
1	資本財	12.8%
2	エネルギー	11.4%
3	各種金融	8.3%
4	ソフトウェア・サービス	7.0%
5	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	5.6%
6	素材	5.3%
7	食品・飲料・タバコ	5.3%
8	ヘルスケア機器・サービス	4.7%
9	メディア	4.4%
10	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	4.3%

(注)組入比率は株式の資産時価総額合計に対する業種別の資産時価総額の比率をいいます。

引受保険会社: アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1 17 3

TEL: 0120 948 193

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

StarAccumulator スターアキュムレーターのリスク及び諸費用について

【投資リスクについて】

- この保険は、積立金額および年金額などが特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの米ドル建の変額個人年金保険です。特別勘定資産の運用は、投資信託を利用して主に米国株式・米国債券などで行なっており、株式および公社債の価格変動に伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、運用実績によっては、年金額や払いもどし金額などのお受け取りになる金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。
- このリスクはご契約者に帰属します。

【為替リスクについて】

- この保険は米ドル建ですので、外国為替相場の変動による影響を受けます。年金や給付金などのお受取時における外国為替相場によって円に換算した年金や給付金などの額が、ご契約時における外国為替相場によって円に換算した年金や給付金などの額を下回ることがあります。お受取時における外国為替相場によって円に換算した年金受取総額などが、お払込み時における外国為替相場によって円に換算した一時払保険料相当額を下回ることがあります。
- このリスクは、ご契約者および受取人に帰属します。

【諸費用について】

- この商品にかかる費用の合計額は、下記の各費用の合計額となります。

■**年金支払開始日前**(終身死亡保障特則適用の場合は適用日以後もご負担いただきます。)

- ユニット数に反映される費用(ユニットプライスの計算後、費用の控除によりユニット数が減少します。)

項目	費用(特別勘定の積立金額に対して)	ご負担いただく時期
保険契約管理費	アクサ・アロケーションファンド20 年率 1.13% アクサ・アロケーションファンド50 年率 1.86% アクサ・アロケーションファンド80 年率 3.16%	毎日、積立金額から控除します。(ユニット数に反映します。)
	積立金最低保証特約が消滅した場合または積立金額(保険契約管理費控除前)が直後に到来する積立金最低保証日における積立金最低保証額の2倍を超える場合 アクサ・アロケーションファンド20 年率 1.06% アクサ・アロケーションファンド50 年率 1.13% アクサ・アロケーションファンド80 年率 1.26%	

(積立金移転時の保険契約管理費のお取扱い)

積立金の移転が行なわれた場合の移転後の保険契約管理費は、移転前後の保険契約管理費のうちいずれか高い方を適用します。

- <例> ●アクサ・アロケーションファンド20からアクサ・アロケーションファンド80に移転
 →年率1.13%から年率3.16%に変更となります。
 ●アクサ・アロケーションファンド80からアクサ・アロケーションファンド20に移転
 →年率3.16%のまま変更されません。

- ユニットプライスに反映される費用(以下の費用を控除したうえでユニットプライスが計算されます。)

項目	費用	ご負担いただく時期
運用関係費 (*②)	アクサ・アロケーションファンド20 年率 1.4%以内 管理報酬等は投資信託の純資産額に対して、年率1.4%以内となります。(*①)	特別勘定にて利用する投資信託において、毎日、投資信託の純資産額から控除します。(ユニットプライスに反映します。)
	アクサ・アロケーションファンド50 年率 1.5%以内 管理報酬等は投資信託の純資産額に対して、年率1.5%以内となります。(*①)	
	アクサ・アロケーションファンド80 年率 1.6%以内 管理報酬等は投資信託の純資産額に対して、年率1.6%以内となります。(*①)	

- (*①)管理報酬等は、運用会社、受託会社、管理事務代行会社および保管会社への報酬・費用、その他の費用(監査法人報酬など)で、マザーファンドにおいて控除されます。
 その他お客さまにご負担いただく費用には、有価証券の売買手数料および保有する有価証券の配当などに対する源泉徴収税などの諸費用がありますが、運用資産額や取引量などによって変動するため費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、特別勘定のユニットプライスに反映されることとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することになります。

- (*②)運用関係費は、運用手法の変更、運用資産額の変動などの理由により将来変更される可能性があります。

StarAccumulator スターアキュムレーターのリスク及び諸費用について

●解約控除

項目	費用	ご負担いただく時期
解約控除	解約払いもどし金のお支払いにおける控除 解約控除額は、解約計算基準日の積立金額に解約控除率を乗じた金額となります。	解約時に、積立金額から控除します。

【解約控除率】 ※1年未満は切り上げとなります。

契約年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目～
解約控除率	9%	8%	7%	6%	5%	4%	3%	2%	1%	0%

ただし、無償引出限度額(*③)と同額までの積立金額については、解約控除額の計算の対象になりません。

(*③) 解約日(引出日)の属する保険年度の初日の積立金額(*④)の10%となります。

(*④) 解約日(引出日)が契約日からその日を含めて1年以内の場合は一時払保険料とします。

■年金支払開始日以後(「年金払特約」による年金を含みます。)

項目	費用	ご負担いただく時期
年金管理費	年金支払額の 1.0%	年金支払日に、責任準備金から控除します。

※年金管理費は、将来変更となる可能性があります。

【年金や死亡給付金などを円通貨でお受け取りいただく場合(「円支払特約」を適用する場合)】

○円支払特約の適用により年金や死亡給付金などを円でお受け取りになる場合、円に換算する日(換算基準日)のTTMレート-40銭の為替手数料がかかります。

換算基準日は、年金の場合は年金支払開始日、死亡給付金額などの場合はアクサ生命が所定の必要書類を受付けた日の翌営業日となります。

※TTMレートは、上記の各換算基準日において所定の金融機関が公示する対顧客電信売買相場仲値(1日のうちに公示値の変更があった場合は、その日の最初の公示値)となります。

※為替手数料は将来変更となることがあります。

【年金や死亡給付金などを米ドル通貨でお受け取りいただく場合】

○アクサ生命からの送金にかかる手数料は、お客さま(受取人)に負担していただきます。なお、金額については、送金する金額や取扱金融機関によって異なるため、表示できません。

※円支払特約を適用し、年金などを円でお受け取りいただく場合には、アクサ生命からの送金にかかる手数料は、アクサ生命が負担します。

【その他留意事項について】

■積立金額最低保証

積立金額最低保証は、契約日から10年、15年、20年、25年、30年経過時に限られます。それ以外の時点で年金受取を開始する場合や、運用期間中にご契約を解約される場合には、お受け取りになる金額が一時払保険料を下回る場合があります。

また、積立金額最低保証は契約日から30年経過時(ただしその日が、被保険者の契約年齢が90歳に達する年単位の契約応当日以降となる場合は、その契約応当日の直前の積立最低保証日)に消滅します。